

学外実習 (Internship)		4 年・前期・1 単位・選択 機械工学科・担当 児玉 謙司	
〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (4)	〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕 D-2 (70%), A-2 (30%)	〔JABEE 基準〕 (d-2d), (i), (b)	
〔講義の目的〕 企業での実習または研修的な就業体験を通じて、 (1) 技術者としての心構えや社会人として何が必要かを学ぶ。 (2) 職業意識を高める機会とする。 (3) 自主性、創造性、および柔軟性の大切さを知り、学生としてこれからなすべきことを再考する機会とする。			
〔講義の概要〕 原則として実習先の企業などで用意されたテーマの実験、あるいは実務を体験することになる。 なお、実習先においては各自が目標を用意して実習に望む姿勢が重要である。			
〔履修上の留意点〕 学校、高専を代表して参加していることを常に意識し、規律ある態度で実習に臨まなくてはならない。 実習中は安全に留意すること。実習者は保険に加入することを義務づける。			
〔到達目標〕 技術者としての心構えや社会人として何が必要かを説明できること。自らが職業意識をどのように高めたかを説明できること。自主性、創造性、および柔軟性の大切さを知る機会とすること。 さらに、学生としてこれからなすべきことを再考する機会とすること。			
〔自己学習〕 実習中の体験の詳細を記録にとり、これまで学んできた専門教科との関連を学習すること。			
〔評価方法〕 業務日誌(50%)、学外実習報告書(25%)、校内での報告会での発表(25%)の3点によって評価する。なお評価実施の条件として、学外実習修了証明書の提出が必要である。(4点全て満たすことを合格の条件とする。)			
〔教科書〕 なし 〔補助教材・参考書〕 平成26年度 学外実習報告書			
〔関連科目・学習指針〕 実習では幅広い専門科目の基礎知識が求められる。実習先の技術者と積極的に交流を持ち、技術者としての心構えや技術者として要求される専門知識の基礎などについて話し合いをすること。			

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己 評価*
第 1 週	1. 実施時期	夏季休業期間中	
第 2 週	2. 実施期間	5 日間以上にわたり、合計 30 時間以上従事	
第 3 週	3. 実習の内容	設計、生産技術、生産管理、品質管理、実験および実験助手、機能・性能・材料試験などの分野	
第 4 週	4. 学外実習先	学科が認めた実習先（民間企業、研究機関、行政機関）	
第 5 週	5. スケジュール	5 月 学外実習ガイダンス	
第 6 週		<ul style="list-style-type: none"> 概要説明 実習先企業の紹介と実習内容の説明 安全教育 希望調査と割り振り 	
第 7 週		6 月 事前研修会	
第 8 週		<ul style="list-style-type: none"> 学外実習の心構えなどの事前学習 講演会出席（外部講師） 	
第 9 週		7 月～8 月 実習	
第 10 週		<ul style="list-style-type: none"> 実習先でのオリエンテーション 実習 日誌および報告書の作成 	
第 11 週		9 月 学外実習のまとめ	
第 12 週		<ul style="list-style-type: none"> 成果報告書の提出 学外実習の成果報告会 	
第 13 週			
第 14 週			
第 15 週			
期末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)